

「治療名人」は麻酔医のような心強い存在です



九州歯科大学附属病院口腔インプラント科  
教授 細川隆司先生

## 手術は100%安心なことはない モニタがない手術はありえない

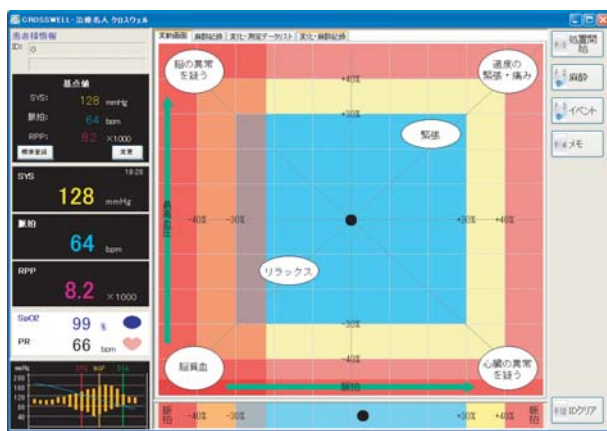
人間は”結果オーライ”。つい過程における問題に目を瞑ってしまうところがあります。大きな事故の背後には多くのヒヤリ・ハットした経験があるといわれています。「手術は100%安心」ということはありえません。めったに事故がおきないからこそ、日頃から医療安全に対してどのように取り組むか、患者さんをどう診るかということが重要です。一度事故が起きてしまうと、失うものは計り知れません。モニタもなく、何もしていなかったでは、もう済まされない時代です。

モニタがあるかどうか、どう活用されていたか、記録がきちんとあるかどうかは、患者さんのみならず、歯科医自身の安全・安心でもあるのです。

## わかりやすいということは重要

これまでのモニタは、血圧・脈拍など数値でその都度判断します。その前の値がいくつで、関係からどういう状態なのかという瞬間的な判断は難しい。その点、「治療名人」では、血圧と脈拍の関係から、患者さんの循環予備力がどうなのか、脈拍が速くなって緊張しているのか、循環が安定しているのかなど、赤・黄・青のゾーンでわかりやすく表示します。今どのような状態かということが、歯科医師のみならず、スタッフ皆と共有できます。

## 患者さんに“みせること”によりコミュニケーションを図り、信頼構築へ



緊張・痛みなど 患者さんにもわかりやすい表現  
赤・黄・青のゾーンでわかりやすい

また、治療名人をコミュニケーションツールとして活用し治療を行うことは、患者さんの信頼感を獲得するためにも有効な手段といえるでしょう。歯科治療は通常意識下の中で行われ、しかも口腔内の治療のため、患者は声に出して伝えられないという不安があります。手術の前に、測定し、「緊張していますね。当然ですよ……。」など画面を見せながら会話すると、それだけで緊張が和らぐということも少なくありません。「治療名人」の画面は患者さんにとってわかりやすく、なぜモニタリングするのか、何を診ているのかを伝えることができます。こういう風にみていてくれるんだと安心されます。